

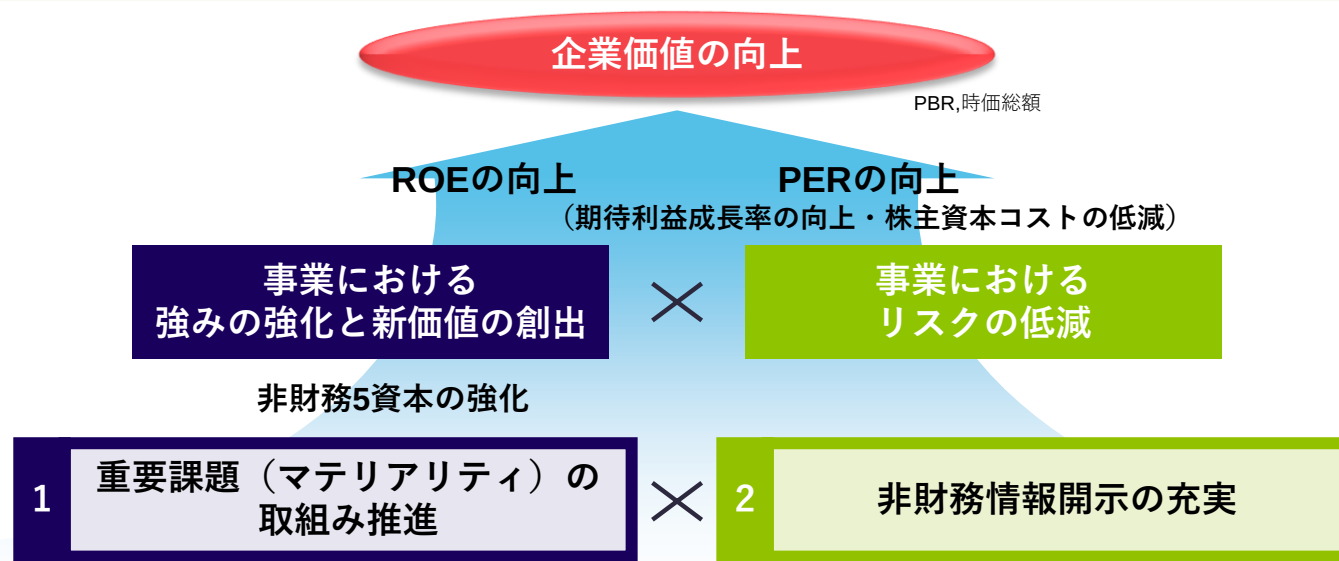


We Find the Way

IR day2026 セッション3
「サステナビリティ経営戦略」

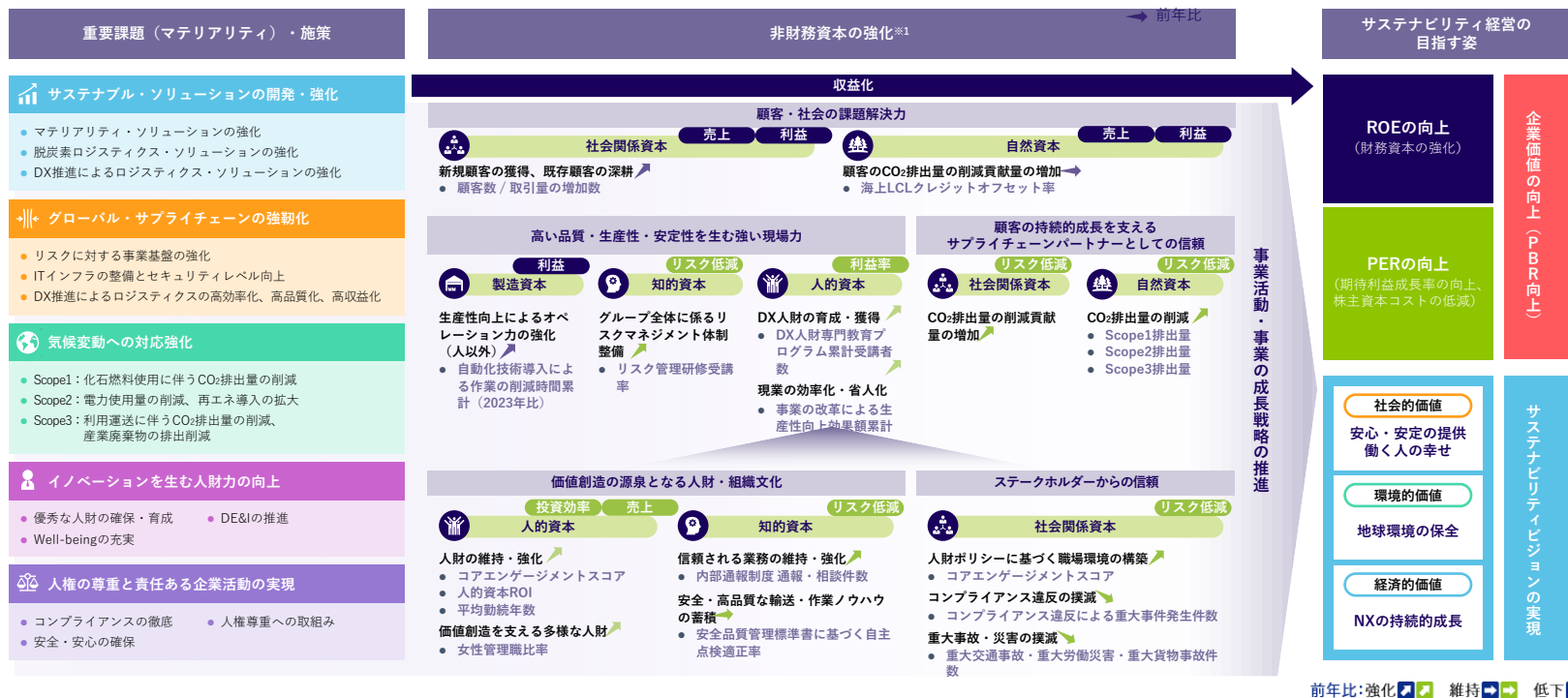
NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
2026年9月18日

サステナビリティ経営における企業価値向上の取組みアプローチ



企業価値向上に向けてはサステナビリティ経営を通じ、事業の持続的成長と外部評価の向上が必要
NXグループでは、重要課題（マテリアリティ）の取組み推進と、
ESG格付けなどの非財務情報開示の充実を図ることで、企業価値向上を目指している

重要課題（マテリアリティ）への取組みによる価値創造の可視化・検証



各KPIがどの資本の強化を示すのか・各資本の強化がROE・PERにどのように影響するのか、を明らかにすることで、外部評価の向上を図るとともに、施策の実効性検証と見直しを図っていく

経営計画ローリングの方向性

経営計画2028
ローリングコンセプト

稼ぐ力の強化を図るとともに、ソリューション企業への変革を進める

ありたい姿

ソリューション企業への変革：顧客サプライチェーンの最適化により、グローバルロジスティクス市場で、事業成長と高収益化を実現している

経営計画2028
基本方針

グローバル
市場での
事業成長の
加速

日本事業の
再構築

サステナ
ビリティ
経営の推進

事業戦略における
現状の課題

日本・海外事業の
収益率向上

End to End
ソリューションの拡大

- ・アカウントマネジメント推進
- ・事業の強化
- ・ソリューションの拡大

M&Aシナジー
の拡大

中長期的な取組み

稼ぐ力の強化

ソリューション企業への変革

📍 プライシングの適正化

📊 コスト上昇・業務内容を踏まえた価格改定

📍 コストダウンの取組み強化

🌐 海外事業構造改革（拠点統合・人員合理化）

💰 日本事業コスト削減（新規PJにより検討開始）

📍 事業戦略の加速

● 重要戦略の進化

📈 日本ロジスティクス事業の収益力強化

📋 グローバルレベルでのオペレーションの標準化・効率化

✈️ フォワーディング事業の収益力強化

🖥️ SME顧客へのプラットフォームサービス提供（自動見積機能の拡充等）

● 重要戦略の融合

🌐 汎アジア／環インド洋戦略・中東欧事業拡大プロジェクトの連動

💡 サステナブル・ソリューションの提供

● M&A案件の収益拡大

🏢 Metro Supply Chain社のPMI

🤖 ロジスティクス事業のロボティクス・オートメーション化推進

📊 cargo-partner・Simon Hegele社の収支改善

🌱 M&Aによる既存事業・顧客基盤の補完

📍 事業基盤の強化

🏠 サイバーセキュリティ

🤖 DX・AI投資

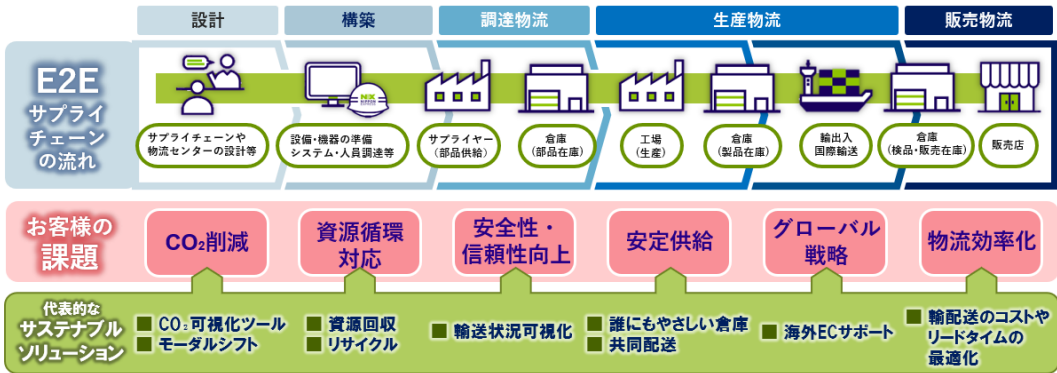
👥 人財ポートフォリオ施策

📋 事業ポートフォリオ見直し（物流サポート事業・専門事業の強化等）

施策にかかる投資額と効果額は別途アップデート

サステナブル・ソリューションによるお客様の課題解決・E2Eの推進

お客様のEnd to Endロジスティクスにおける様々なサステナビリティ課題を解決する
N Xグループのサステナブル・ソリューション



お客様の課題に応じて既存プロダクト・サービスを組み合わせソリューションとして提供



XXXXXX株式会社 御中

〇〇〇〇ソリューション
ご提案書

NIPPO EXPRESS HOLDINGS, INC.
Sep. xx, 2025



サステナブル・ソリューションの事業実装を通じたNXの企業価値向上

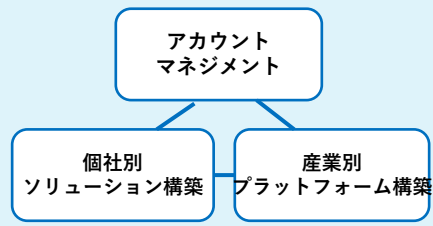
2026年度統合報告書より抜粋

N X 事業活動

End to Endのソリューション提供の加速

N X の企業価値向上

事業の成長戦略の取組み



連携・強化

サステナブル・ソリューションの強化・展開の取組み

※サステナビリティ経営の重要課題の取組み

商品・サービスの開発・拡充

End to End
ソリューション
営業の強化

お客様の課題に
おき合わせソリューションとして提供

お客様への価値提供

お客様ビジネスの
持続的成長・企業価値向上

売上拡大
(社会価値訴求によるビジネス拡大)

利益率向上
(物流費・その他コストの削減)

リスク低減
(お客様サプライチェーンの安定)

各顧客への
ビジネス領域
拡大

各顧客に
おける契約
維持・拡大

売上拡大
(案件獲得)

利益率向上
(価格競争の回避)

営業効率の向上
(投下時間の削減)

売上・利益の安定
(顧客の定着・離反低減)

ROE向上

PER向上
(株主資本コスト
の低減)

サステナブル・ソリューションによる価値創造ストーリー

顧客の
課題

CO2削減

資源循環対応

安全性・信頼性
向上

安定供給

グローバル
戦略

物流効率化

N X サステナブル・ソリューション 群

グリーン・サーキュラー
ソリューション

セーフティ・レジリエント
ソリューション

グローバル・物流効率化
ソリューション

顧客への提供価値

- ・ CO₂排出量の削減・算定
- ・ 廃棄物削減による処理費用低減
- ・ リサイクル・リユースによる資源調達コストの抑制

- ・ 品質事故・製品損傷・紛失の削減
- ・ 納期遅延・供給停止の抑制
- ・ 事業継続性・顧客信頼度の向上

- ・ 運転資本・在庫保管費の削減
- ・ 納期短縮・販売機会の向上
- ・ 海外販路拡大に伴う供給安定性・品質の確保

顧客の経営指標改善・顧客の企業価値向上

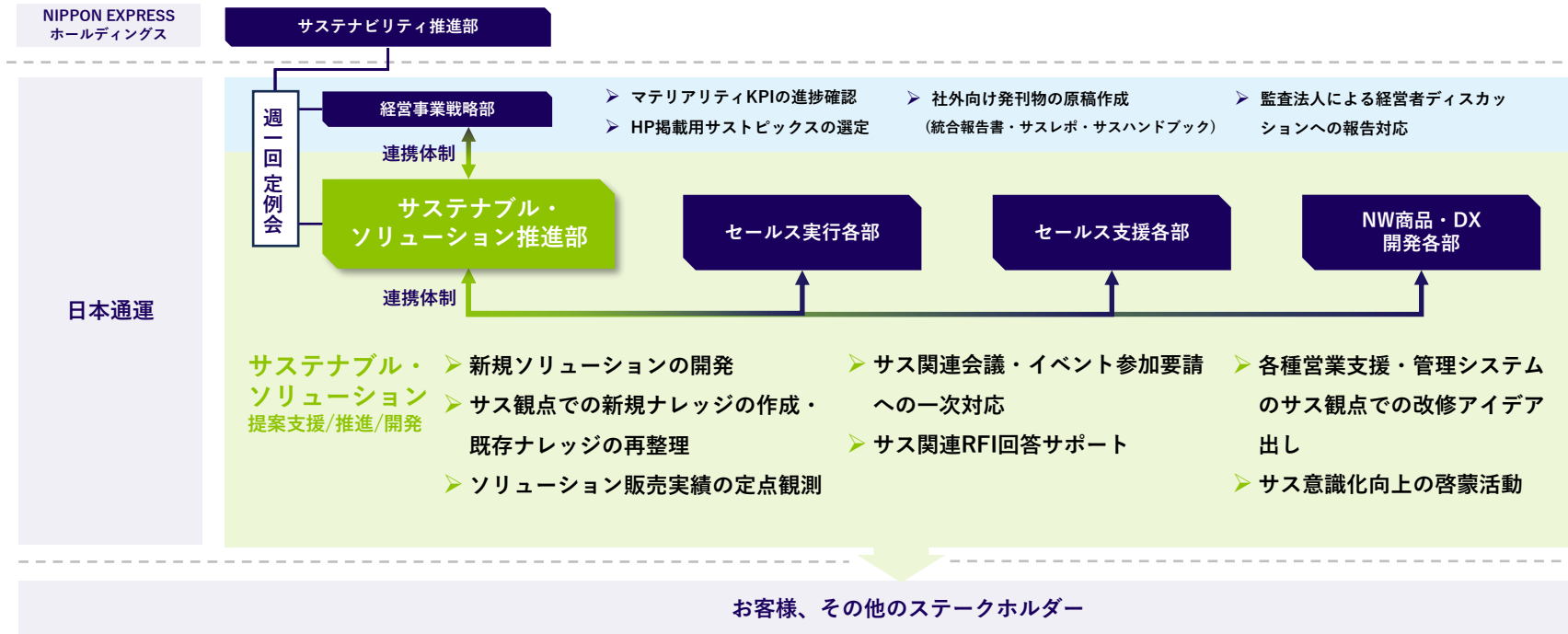
NXの創出価値

取扱い物量増加・長期契約化・新規案件獲得・顧客維持・単価向上

売上げ・利益の拡大（ROE向上）

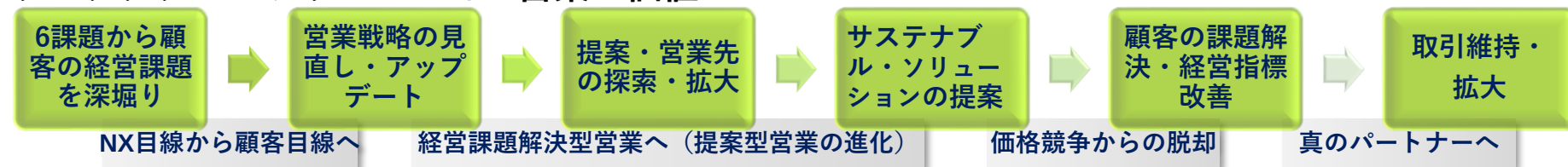
(参考) サステナブル・ソリューションの推進体制

サステナブル・ソリューション推進部は関係各部と連携し、サステナビリティに貢献する商品開発・企画を担う



サステナブル・ソリューションの実践（日本通運）

サステナブル・ソリューション営業の価値



アカウントセールス体制への実装プロセス

①顧客課題把握・6課題への整理

②アカウント戦略へ反映

③顧客提案、案件・実績管理

④成果検証・横展開

経営課題解決型営業への進化

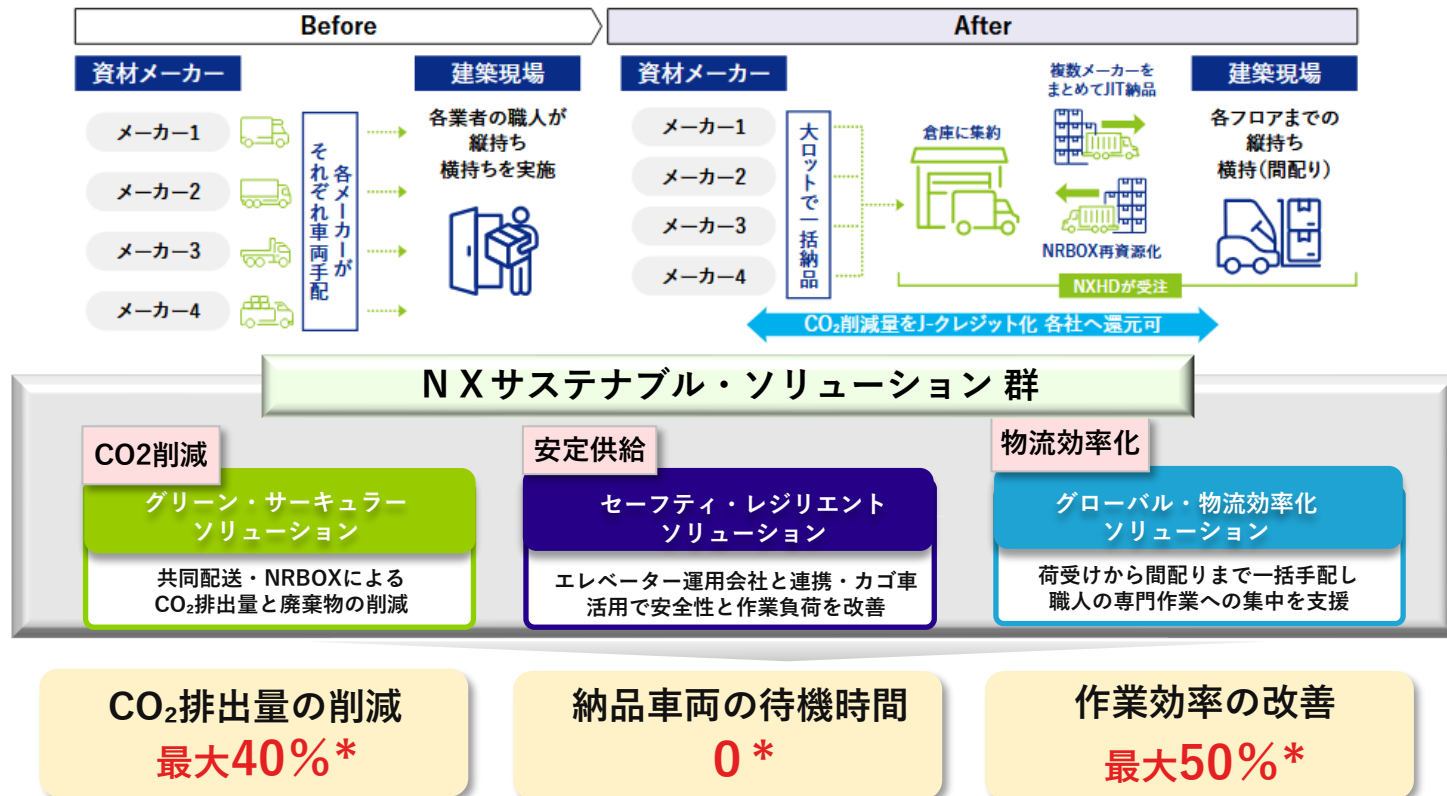
物流部門（CLO） + 経営戦略部門への訴求

日本通運の取組み進捗

- 重要顧客からパイロット顧客として数社を選定。
- AIを活用し、顧客外部情報、営業情報から顧客課題を把握し、顧客別戦略を立案、提案。今後、実施内容検証の上、対象顧客を拡大。

サステナブル・ソリューションによる顧客の課題解決 具体的事例①

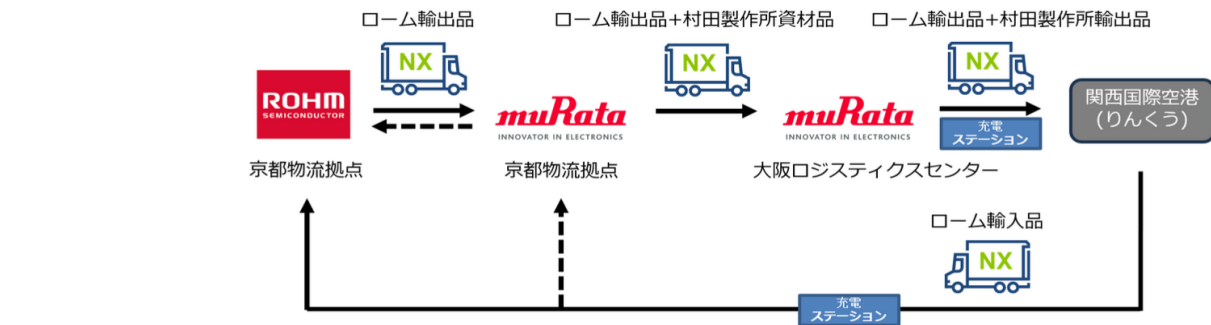
■ 建設資材の共同配送＋現場内搬入支援「建設ロジスティクス」



*期待される削減効果（ニュースリリース記載） *引用元： [ニュースリリース](#)

サステナブル・ソリューションによる顧客の課題解決 具体的事例②

■村田製作所様、ローム様 EVトラックを活用した共同輸送



日本物流団体連合会主催、
第1回日本物流大賞において
「日本物流記者会賞」受賞

NXサステナブル・ソリューション 群

CO2削減

グリーン・サーキュラー
ソリューション

EVトラック活用

安定供給

セーフティ・レジリエント
ソリューション

拠点・充電設備を連携した
運行設計

物流効率化

グローバル・物流効率化
ソリューション

共同輸送・輸出入貨物の
往復実車化

積載率

15%⇒**60%**へ向上

労働時間

380時間削減

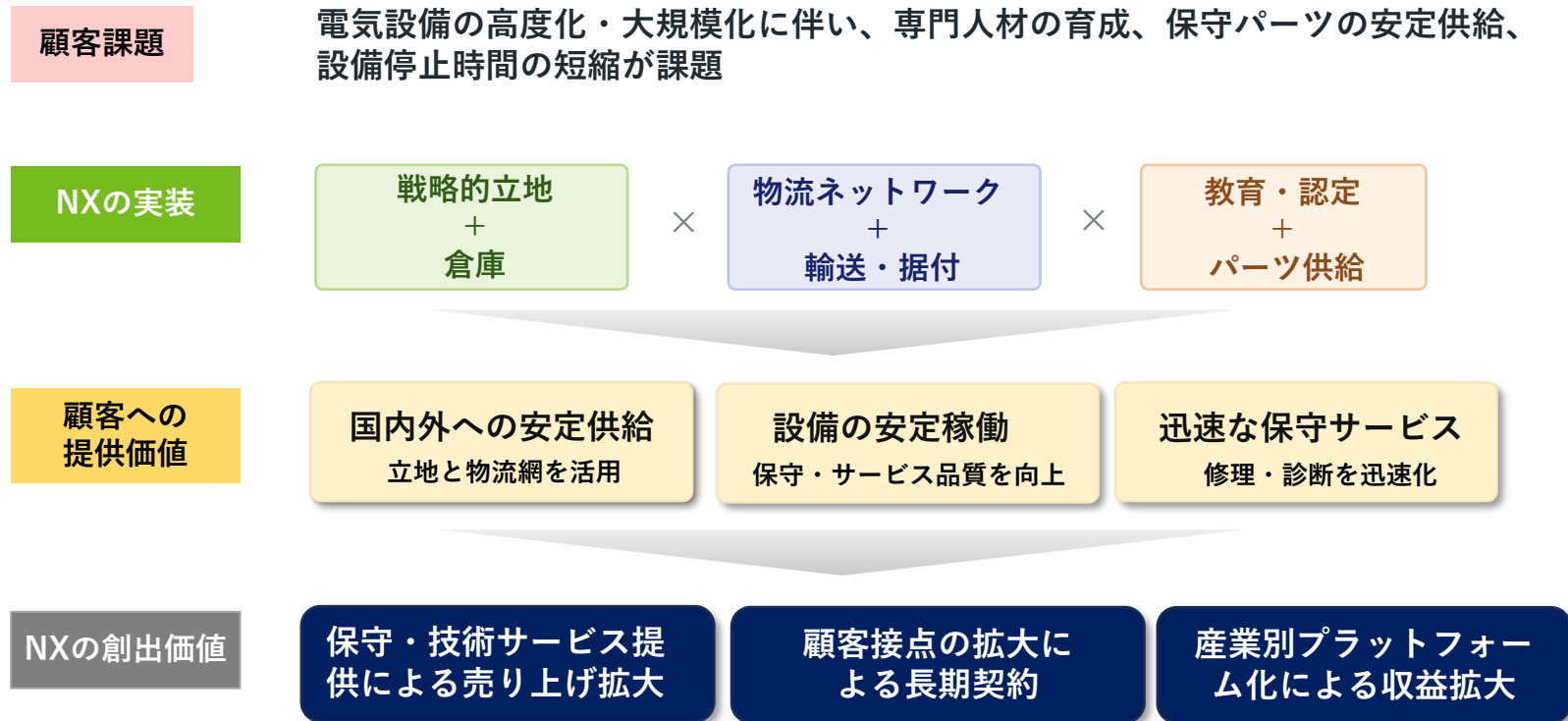
トラック使用台数

年間**240台**削減

*引用元：ニュースリリース

サステナブル・ソリューションによる顧客の課題解決 具体的事例③

■ABB様 × 日本通運 | 国内初のサービスワークショップを物流拠点内に開設



DJBICI 評価向上の取組み目標



DJBICI
評価の
向上

現状

2028年までの
目標

2028年末までに
Asia Pacific Index入り

World Index入り

2037年
グローバル市場で
存在感を持つ
ロジスティクスカンパニー

非財務情報の開示

開
示
規
制
対
応

C
S
R
D

S
S
B
J

欧州
任意開示

欧州
法定開示

グループ
法定開示

以降継続

グループ
法定開示

以降継続

- ・ 経営トップ・担当役員・部長層を巻き込み、HD内の横連携と事業会社への浸透を強化。
- ・ INDEX入りを目標にとどめず、持続的な企業価値向上につながる取組みとして戦略的に推進する。

今後の優先取組み項目

今後の優先取組み項目は、スコアへのインパクトが大きい領域への取組みを強化する

	配点	2025	Gap
Total			66.5
ガバナンスと経済的側面			20.2
透明性と報告		0.7	
コーポレートガバナンス		4.9	
マテリアリティ		1.0	
リスクと危機管理		1.9	
ビジネス倫理		4.7	
方針への影響		2.0	
サプライチェーンマネジメント		2.7	
情報セキュリティ	グローバル・サプライチェーンの強靱化	2.3	
環境的側面		16.3	
環境方針と管理		2.2	
エネルギー		0.4	
廃棄物と汚染物質		0.3	
水		0.3	
気候戦略		3.7	
製品管理		6.7	
生物多様性		2.7	
社会的側面	気候変動への対応強化	33.0	
労働慣行		3.6	
人権		3.3	
人的資本管理	イノベーションを生む	9.0	
労働安全衛生	人財力の向上	6.5	
輸送の安全	人権の尊重と責任ある企業活動の実現	3.7	
顧客との関係		2.3	
プライバシー保護		1.8	
コミュニティとの関係		2.8	
勝手評価によるDJBI補正			

責任あるAI：新規

✓ AIの方針・責任体制、教育・監査を整備し、統制と運用の開示

IT戦略

サプライチェーン管理：

✓ **グループ全体での** サプライヤ・リスクのスクリーニング、重要サプライヤに対する、支援・評価・是正の実績の改善

サステナビリティ推進部+関係部

輸送製品管理：

✓ 輸送モード別排出量・削減目標・車両更新計画の整備含む、移行計画・資本配分

サステナビリティ推進部

生物多様性：

✓ 生物多様性のリスク評価・対応方針の開示

サステナビリティ推進部

人的資本管理：

✓ **グループ全体での** 採用・育成・離職の実績（性別/年齢層/管理職レベル等）と成果（人的資本ROI）、改善状況の開示

人財戦略統括部

労働安全衛生：

✓ **グループ全体での** 従業員・請負事業における労働損失傷害度数率や労働関連死亡災害の実績と改善状況の開示

人財戦略統括部/コンプライアンス・リスク統括部
部門間連携要

輸送安全：

✓ 安全リスクに対する緩和措置（疲労リスク管理・アルコール検査等）・教育、事故実績と改善状況の開示

コンプライアンス・リスク統括部



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。
万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、
弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。